

ふぞくの風



「いつか見つけてみせます！」～ある児童との手紙のやりとりを通して～

校長 橋元 忠史

校長室前の「先生あのね箱」には様々な手紙が入ってくる。ただの要望や依頼のような内容も多いが、時々、自分の悩みを相談し、私に意見を求める手紙がある。そういう場合に個人名が示されていたら返事を書くようにしている。

ある時、次のような内容の手紙が入っていた。「最近、ひとりぼっちでいることが多くなった。なぜだか自分でも分からない。何となくだが、一緒にいた子に避けられている感じもする。先生やお母さんには相談したくない。手紙だと思いを伝えられる。こういう時、校長先生だったらどうしますか？意見を聞かせてください。」一文字一文字丁寧に綴られたその手紙からは、心が揺れ動く繊細さの一方でぶれない意思の強さを感じた。

こんな時、担任を呼んでその子の状況をこっそり聞くのは簡単だし、それを教育的配慮だといいい訳もできよう。しかし、そこはぐっと堪え、思いを巡らし、この子と同じ目線で返事を書くことにした。自分の子どもの頃の体験も交えて他者との関係をどう捉え、どうつくっていくべきか、そして何よりも他者との関係性を問う前提となる「自分がどうありたいか」ということについて私なりにだが、心を込めて便せん4枚に記した。



次の日、返事が来ていた。そこには次のように綴られていた。「校長先生ありがとうございます。まだ私自身がどうありたいかは、はっきりしていませんが、いつか見つけてみせます。私がどうありたいかはっきりしたら、またお手紙書きますね。」短い決意に満ちた文章だった。きっと、この子はいつの日か、周りの言動に流されず、自分がどうありたいのかを大切に生きていける素敵な人に成長してくれるだろうと思えた。

次の日の朝、いつものように正門で子どもたち一人一人とアイコンタクトをしていると、手紙のやりとりをした児童が登校してきた。お互いに少し気恥ずかしさを感じつつ、特別声をかけ合うわけでもなく笑顔で挨拶を交わした。靴箱へ向かうその子の心なしか晴れやかな後ろ姿へ向け、「ずっと見守っているからね。応援しているよ。」と心の中でつぶやいた。今日もきっといい日になる。そんな思いを抱かせてくれる朝である。つい、誰に対しても何に対しても声かけたくなる。「ありがとう」と。

【12月の主な行事】

2日(月)	新一年入学児童選考願書受付及び面談(～9日)	12日(木)	冬季休業前特別貸出(高)
6日(金)	図書返却期間(～10日)	13日(金)	冬季休業前特別貸出(中)
9日(月)	教育相談【希望者】(～17日)	14日(土)	ちからの会門松づくり
		16日(月)	冬季休業前特別貸出(低)
		24日(火)	後期前半終了

● 参観ありがとうございました ～学校参観週間～

11月1日(金)～7日(木)は、学校参観週間でした。期間中には、保護者や祖父母、次年度の入学希望者など、1000名を超える多くの方々に子どもたちの様子を参観していただきました。参観後、園児から「とても楽しかったです。この学校に来たいです。」という声や、一般の方から「マイプロジェクトで一人一人が課題をもって探究しているのがすごいですね。」という声が聞かれました。

本校の魅力の一端を発信することができた学校参観週間となりました。



【学習の様子を参観する参観者】

● 自然の雄大さ・美しさに触れた校外学習

本校では、本物に直接触れることができる体験活動を大切にしています。

11月は、理科の学習で5年生が霧島市を流れる天降川見学、6年生が鹿児島市吉田の地層見学を行いました。どちらの見学も、子どもたちにとって教室や教科書では学ぶことができない貴重な体験となっており、長い年月をかけて作られるといった自然の雄大さを実感できる学習です。本物に直接触れ、比較することで相違点や共通点を実感を伴いながら学ぶことができました。

また、5年生は11月21日(木)～22日(金)に、南薩少年自然の家において1泊2日の自然教室を行いました。みんなで号令を掛け合って万之瀬川を遊覧したカヌー体験、野鳥の声や美しい星空、森から漂ってくる匂いなど、五感で自然を味わったナイトウォーク、班の友達と役割分担をしながらおいしいカレーを作った野外炊飯。集団で行動し、寝食を共にしたことでたくさんの学びがあったようです。



【天降川を観察する5年生】



【心を一つに息を合わせてオールを漕ぐ姿】

自然教室で学んだこと

- 自分の仕事に責任をもつこと
- 協力することでやり遂げられること
- 恵まれた生活をできていることへの感謝
- 集団で生活する上でのルール
- 時と場に応じた言動の大切さ
- 自然の心地よさ

これからは生かしていきたいこと

- 集合時刻に遅れないように時間を守ること
- 人の話をしっかり聞くこと
- 協力したり、助け合ったりすること
- 時と場に応じた雰囲気づくり
- スリッパ並べ等、進んで行動すること
- ルールを守り、下級生の手本になること

自然教室に行く前より成長したこと

- 時間を守るなど、時間に厳しくなった。
- 自分から進んで行動したり、周囲に声掛けをしたりするようになった。
- まずは、やってみようと思える気持ちが高まった。
- 見通しをもって行動することができるようになった。

上記の子どもたちの言葉から、集団生活の在り方を考えたり、友達と協働したりすることの大切さを改めて実感できたことが分かります。これからも、高学年として6年生と一緒に附属小学校を牽引して行ってほしいものです。